

Title	フランチャイズ型ジョイントベンチャーのマネジメントコントロール - 外資系外食ビジネスを中心とする考察 -
Sub Title	
Author	黒岩, 篤(Kuroiwa, Atsushi) 小幡, 績
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2042号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2042

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	小幡研究会	学籍番号	80430365	氏名	黒岩篤
(論文題名)					
『フランチャイズ型ジョイントベンチャーのマネジメントコントロール』					
-外資系外食ビジネスを中心とする考察-					
(内容の要旨)					
<p>本修士論文は、フランチャイズ型ジョイントベンチャーのマネジメントコントロールについて扱っている。その考察の中心は、外資系外食企業である。フランチャイズ型ジョイントベンチャーとは、日本マクドナルドやスターバックスコーヒージャパンといった会社を指す。米国等で展開されている外食ブランドと日本の現地企業とが、ジョイントベンチャーを組成し展開していく際の、マネジメントコントロール上のポイントを明らかにしようとしている。尚、ここでマネジメントコントロールとは、いわゆる人事評価制度を指すのではなく、そこで働く社員が活性化して働くための経営上のポイントを指す。2005年現在の外食市場は成熟化著しく、競争が激しい。その中では社員の自立性や自発性が求められ、その意味ではマネジメントコントロールは社員活性化のためのシステムと言い換えることも出来る。</p> <p>理論研究を通して明らかになったポイントとしては、次のようなものがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 意思決定構造の明確化 ② 親会社の長期的スタンス ③ ジョイントベンチャー主体の経営資源調達 ④ ジョイントベンチャーの機能拡大 ⑤ 戦略的な人事採用及び制度の設定 ⑥ 成長限界イメージへの対応 <p>これらの観点から三社の事例研究を行った。前述の二社に加えて、わずか五年で撤退したバーガーキングジャパンを取り上げた。この事例研究を通じては、上記の各項目の有効性が再確認されるとともに、経営陣や社内起業家精神の必要性が付加的に明らかになっている。</p> <p>最後に⑥の成長限界イメージを打破するための具体的な方策を提示している。その内容は、従来から考えられていたキャリアパスの提示の必要性とは異なり、プロジェクトベースでの業務執行や短期サイクルでの評価というものである。</p>					
以上					